

個人質問 (3月7日) さはしあこ議員



市バス路線「森の里団地（緑区）⇄栄」 住民の悲痛な声に答え、廃止方針撤回を

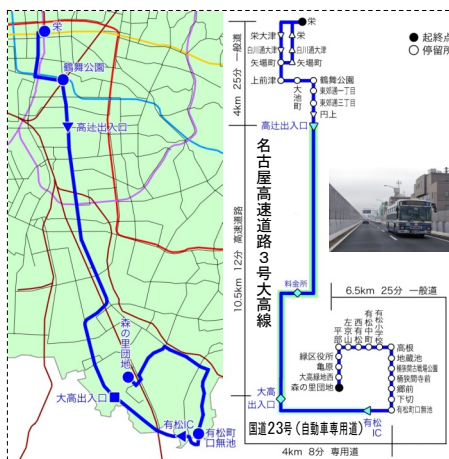
▲署名を呼びかける、地元の有志の会のチラシ

3月7日の本会議で、さはしあこ議員は4月廃止方針の市バス「高速1号系統」についてたどしました。

市は赤字を理由に、市郊外の「森の里団地」（緑区）と中心街の「栄」（中区）を結ぶ同路線を4月から廃止する方針です。路線距離は市バス最長（24km）で、名古屋高速道路を経由する市内唯一の路線（料金は通常料金210円+高速料金10円=220円）です。

「廃止されたら困る」-1万人が署名

廃止方針が地元を示されると、撤回を求める署名が



沿線各地で取り
組まれ20日間で
賛同者は計1万
人に。地元3学
区の区政協力委
員長や町内会、
自治会、商工会
も市に請願、陳
情、要望書を提
出するなど反対
世論が急速に拡
がっています。

▲ファンサイト「まるはち交通センター」より（一部加工）

さはし議員は「市バスは通勤、通学、買い物、通院など日常生活に欠かせない市民の足。『廃止されたら困る』『4月から利用するつもりで進学先の高校を決めたのに』などの訴えが、私のもとにも次々寄せられている。市はこの悲痛な声を受け止めるべきだ」と述べ、再考を迫りました。



「赤字で経営が厳しい。丁寧に説明する」(局長)

これに対し交通局長は「この路線は約8千5百万円の赤字。市の交通事業はコロナ禍で非常に厳しい経営状況にあり、路線の再編成が必要。民間鉄道駅へのアクセスの改善など利便性が向上するので、丁寧に説明していきたい」と述べるにとどまりました。

拙速な廃止方針は撤回すべき

さはし議員は「赤字だからといって地域の重要な足を切り捨てていいのか。路線の存続・廃止は、地域にとって重大問題。丁寧に時間をかけるべきだ。あまりにも拙速な判断ではないか」と重ねて撤回を要求。しかし局長は「丁寧に説明する」と繰り返すだけでした。

さはし議員は「路線廃止を前提とした説明は求めている。地域の皆さんも私も（拙速なやり方は）全く理解できない。4月廃止は撤回を」と強く求めました。

緑市民病院 市大附属病院への移行後も 「地域密着型」さらなる充実を提案

市立緑市民病院（指定管理者が運営）は来年4月から、市立大学医学部附属病院に移行する予定です。これにともなって、国による病床削減の流れのもと95床が削減されるなど、住民から不安の声があがっています。

さはし議員は、「地域密着型」病院としてさらなる充実に向けて、二点提案しました。

「運営協議会」の機能を残すべき

一つ目は同病院独自の「運営協議会」機能の継続です。「協議会」は、10年前の同病院への指定管理者制度導入にともない、市民請願に基づき設置されたもので、医師会長、患者・市民代表、市保健福祉センター所長、同病院長などで構成されています（年2回開催）。

さはし議員は、待合室へのポスト設置や受診時対応の改善などの”実績”に触れ「地域のニーズを医療に

直接反映させる先進的なしくみであり、本市の宝だ。この機能を引き続き残してほしい」と求めました

健康福祉局長は「利用者等様々な人から意見をいただき、日々改善に取り組んでいくことは非常に意義がある。利用者の要望等への対応は、引き続き市と市立大学とで協議していく」と答えました。

住民要望に沿ってリニューアルを

二つ目は、住民からの要望が多い、「災害に強く、環境にもやさしく、感染症に対応できる病院」への思い切ったリニューアルです。局長は「施設の老朽化は進んでいるが、（提案は）病院全体の対応が必要になるので慎重な検討が必要」と述べるにとどまりました。

さはし議員は、「市大附属病院移行後も、地域との信頼関係を引き続き築いてほしい」と要請しました。